

国語科

国語科の内容における身に付けさせたい力	
ア 知識及び技能 ○当該学年で習う漢字や言葉に関する内容の理解を深める。	イ 思考力、判断力、表現力等 物語文の読解力に加え、話の中心を考えながら聞いたり、説明したりすることをできるようにする。

※（低）…1，2学年 （中）…3，4年生 （高）…5，6年生

	課題	改善策
ア	<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉と書き言葉の違いの理解に課題がある。 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチをする時は、もっと簡潔に言えないか、勘違いされる恐れのある同音異義は補足説明を加えているか等を発表前に考えさせる。（高） 話し合いの振り返りの場面などで、ICTを活用して撮った動画を見返し自分たちの話し合いの様子を確かめる活動を設定する。 新出漢字を用いて熟語や短文を書いたり、新たな表現を用いて他者とコミュニケーションを図ったりする時間を設け、語彙を増やし、漢字を活用する機会を設ける。 反復学習などを通して漢字を正しく書けるようにする。
イ	<ul style="list-style-type: none"> 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。 『書くこと』では、推敲することや文章に対する感想や意見を伝え合い自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの目的を明確にして、小グループや全体で話し合う時間を設定する。 普段から話の聞き方と話し合いの仕方を指導する。具体的には、以下のとおりである。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> （低）頷いて聞く、質問する。 （中）自分と異なる意見であっても、まずは、人の意見を最後まで聞き、認める。 （高）自分と他者の意見を交流させて、異なる意見を自分の考えに生かす。 </div> 書く単元では、書くだけでなく、推敲する時間、振り返る時間を設ける。特に、推敲や振り返りでは、推敲の観点を明確にする。低学年では、主語と述語の関係や漢字などの間違いを直す。中学年では、様々な推敲の観点を理解させる。高学年では、文章全体の構成や書き方に注目して推敲させ、必要感をもって推敲する児童を育成する。

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

低学年 タブレット端末を活用して、友達の考え・作品等を共有することで、他の考え方があることに気付く。

中学年 タブレット端末を活用して、調べ学習に取り組んだり、自分自身のメモとして記録を残したりする。また、友達の考えや作品を共有し、他者の考えを尊重したり、自分の考えを友達に伝えたりすることもできるようにする。

高学年 タブレット端末を用いて、調べ学習に活用するだけでなく、様々な資料から必要な情報を取り出し、自分の考えをまとめる際に活用する。また、調べた内容や自分の考えを、タブレット端末等を活用して他者に効果的に伝えることができるようにする。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

1年 めあてを振り返るとともに次時の学習への見通しをもたせる。

2年 めあての振り返りを学級全体で行い、次時の学習への見通しをもたせる。

中学年 めあての振り返りに加え、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。

高学年 本時のめあての振り返りでは、内容に応じて次時やこれからの生活に生かせる内容を考えさせる。

手だての時期と成果検証について

・各教科とも通年に渡り改善を図り、3月には『東京ベーシック・ドリル』診断テスト、4月には『全国学力・状況調査』を活用し客観的な検証する。

社会科

社会科の内容における身に付けさせたい力

	ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
到達度	グラフの読み取りや都道府県の位置と名称を理解する。	学習したことを自分の言葉でまとめ、表現できるようにする。

※ (中) … 3, 4年生 (高) … 5, 6年生

	課題	改善策
ア	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に必要なグラフなどの資料から情報を適切に読み取ることが苦手である。 社会科と日常生活との関連について題意識や社会生活への関心が十分に高まっておらず、知識や理解の定着が十分でない。 都道府県など、地理的な位置関係の理解が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を明確にして、グラフなどの資料から情報を読み取る必要感をもたせる (高) 反復学習などを通して基礎的・基本的な学習事項 (方位、地図記号、都道府県の位置など) の定着を図る。 (中) 社会に関心をもてるような掲示物 (地図、グラフ、年表など) を教室内に掲示する。
イ	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝える場面で言語化したり、文章化したりすることが十分ではない。 社会的事象に着目して、問いを見付けたり考えを表現したりする力が十分身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果の検討場面では、資料から分かった事実を使って検討し、結果をまとめさせる。 (高) 学習課題を明確にすることで常に調べる視点をはっきりさせ、問題解決学習に取り組ませる。 (中) 観察や見学、調査などの体験的な活動を多く取り入れ、自分の思いを表現する時間を設定する。 (中) 時事的なニュースを紹介したり、タブレット端末等を活用して様々な情報を視覚的に提示したりするなど、社会的事象が自分達の生活に結び付いていることを理解させ、学習への関心や意欲を高める。 (高)

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

中学年 タブレット端末を活用して、調べ学習に取り組んだり、自分自身のメモとして記録を残したりする。また、友達の考えや作品を共有し、他者の考えを尊重したり、自分の考えを友達に伝えたりすることもできるようにする。

高学年 タブレット端末を用いて、調べ学習に活用するだけでなく、様々な資料から必要な情報を取り出し、自分の考えをまとめる際に活用する。また、調べた内容や自分の考えを、タブレット端末等を活用して他者に効果的に伝えることができるようにする。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

中学年 めあての振り返りに加え、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。

高学年 本時のめあての振り返りでは、内容に応じて次時やこれからの生活に生かせる内容を考えさせる。

手だての時期と成果検証について

・各教科とも通年に渡り改善を図り、3月には『東京ベーシック・ドリル』診断テスト、4月には『全国学力・状況調査』を活用し客観的に検証する。

算数科

算数科の内容における身に付けさせたい力

領域別	観点別
簡単な四則演算はできているが、立式の説明ができるようにする。	苦手な問題に出合ったときにも、最後まであきらめずに問題を解こうとする。

※（低）…1, 2学年 （中）…3, 4年生 （高）…5, 6年生

	課題	改善策
領域別	<ul style="list-style-type: none"> 簡単なかけ算やわり算などの基本的な計算はできるが、答えを式や言葉を用いて説明することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習に重点を置き、必要感をもって意見交流させ、説明する力を付ける。 一つの問題の中に式が複数必要とされる問題の場合は、その式を比べる時間を設定し、（ ）や四則を混合させた一つの式で表すことのよさを実感させる。（高） 解の求め方の説明を最後まで行わせる。解の検討では、問題文を図に直す等の説明の工夫を価値付け、自己の解答に不足している図等を補う時間を設ける。（低） データの活用の単元では、グラフの読み方を教え、学校のケガの種類など子供にとって身近な問題をグラフにする時間を設定する。（中） 図形の単元では、その学年に合わせた図形の見方を改めて確認し、指導する。 ※見方の例：「点」、「長さ」、「角度」、「位置関係」など注目する視点を明確にする。
観点別	<ul style="list-style-type: none"> 解を導くことはできるが、解の理由や根拠を式や言葉を用いて説明することに課題が多い。 	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

低学年 タブレット端末を活用して、友達の考え・作品等を共有することで、他の考え方があることに気付く。

中学年 タブレット端末を活用して、調べ学習に取り組んだり、自分自身のメモとして記録を残したりする。また、友達の考えや作品を共有し、他者の考えを尊重したり、自分の考えを友達に伝えたりすることもできるようにする。

高学年 タブレット端末を用いて、調べ学習に活用するだけでなく、様々な資料から必要な情報を取り出し、自分の考えをまとめる際に活用する。また、調べた内容や自分の考えを、タブレット端末等を活用して他者に効果的に伝えることができるようにする。

■学習の見直しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

1年 めあてを振り返るとともに次時の学習への見直しをもたせる。

2年 めあての振り返りを学級全体で行い、次時の学習への見直しをもたせる。

中学年 めあての振り返りに加え、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。

高学年 本時のめあての振り返りでは、内容に応じて次時やこれからの生活に生かせる内容を考えさせる。

手だての時期と成果検証について

- 各教科とも通年に渡り改善を図り、3月には『東京ベーシック・ドリル』診断テスト、4月には『全国学力・状況調査』を活用し客観的な検証する。

理科

理科の内容における身に付けさせたい力

領域別	観点別
目的を理解した上で観察や実験を行い、正確に実験し、生物や電気に関する理解を深める。	観察実験を行うだけでなく、実験器具の使い方や名称などの知識を増やしていく。

※ (中) … 3, 4年生 (高) … 5, 6年生

	課題	改善策
領域別	<ul style="list-style-type: none"> 観察の視点についての理解が十分ではなく、分類の基準が児童の中で明確になっていないと考えられる。 実験の検討・改善において、どうすればよいか考えることはおおむねできるが、丁寧に説明するがあいまいである。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察時（または、観察前）に観点（色・形・大きさなど）をもって観察できるように指導する。観察後の振り返りでは、比較して見付けた新しい視点を明確にして再度、観察・まとめを行う。(中) 学習問題を基に実験し、考察を書く時間を設定する。 考察場面で、思い通りの実験結果が出なかった場合においても、なぜそうなったのかを検討する時間を設定する。(高)
観点別	<ul style="list-style-type: none"> ○実験器具の名称等を正確に理解し、適切に観察・実験することに課題がある。 実験器具の正しい使い方はおおむね理解しているが、器具の名称などの知識が不足気味である。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習に重点を置き、必要感をもって実験器具を使わせる。(中) 新しく使う実験器具は、使用する理由を考えさせてから使うようにする。(高)

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

中学年 タブレット端末を活用して、調べ学習に取り組んだり、自分自身のメモとして記録を残したりする。また、友達の考えや作品を共有し、他者の考えを尊重したり、自分の考えを友達に伝えたりすることもできるようにする。

高学年 タブレット端末を用いて、調べ学習に活用するだけでなく、様々な資料から必要な情報を取り出し、自分の考えをまとめる際に活用する。また、調べた内容や自分の考えを、タブレット端末等を活用して他者に効果的に伝えることができるようにする。

■学習の見直しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

中学年 めあての振り返りに加え、単元末に学んだことを振り返る時間を設定する。

高学年 本時のめあての振り返りでは、内容に応じて次時やこれからの生活に生かせる内容を考えさせる。

手だての時期と成果検証について

- ・各教科とも通年に渡り改善を図り、3月には『東京ベーシック・ドリル』診断テスト、4月には『全国学力・状況調査』を活用し客観的な検証する。